

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	3671700262
法人名	株式会社 ツツイ
事業所名	グループホーム プラチナ・ヴィラ鴨島
所在地	徳島県吉野川市鴨島町鴨島208番地 (電話) 0883-22-3188

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年8月5日

【情報提供票より】(平成20年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年12月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	21 人 常勤21人, 非常勤0人, 常勤換算 1階 7人, 2階 7人, 3階 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	共益費3,000円 水道光熱費3,000円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ - 円
	または1日当たり		- 円

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	25 名	男性	6 名	女性	19 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人 徳寿会 鴨島病院 ・石田歯科
---------	----------------------

徳島県 グループホームプラチナ・ヴィラ鴨島 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は国道の沿線に位置し、近隣にはショッピングセンターや飲食店が立ち並び買い物などの日常生活や交通の利便性に恵まれている。管理者と職員の意思疎通、情報交換が円滑に行われており、利用者一人ひとりの心身状態などに応じた配慮の行き届いた援助姿勢がうかがえる。また協力医療機関との連携により24時間の医療体制が整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「同業者との交流を通じた向上」については全国グループホーム協会への加入並びに県内で開催される各種研修会へ参加し、情報交換や交流を行っている。「日常的な外出支援」は一人ひとりの希望と体調に配慮し、外出支援を行うなど改善されている。「運営推進会議を活かした取り組み」、「鍵をかけないケアの実践」については改善に至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者及び各ユニットのスタッフ全員で話し合われている。地域密着型サービスとしての役割や業務を振り返り、課題の改善についても検討するなどのサービスの質の向上に向けた取り組みが行われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3か月に1回開催し入居者や家族、地域自治会員、民生委員、地域包括支援センター職員が参加している。会議内容は参加者との意見交換が中心となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置や年2回の家族会、面会時、電話連絡の際などに意見や希望などを積極的に聞いている。また解決に向けた手順やマニュアル、記録様式などを整備している。要望などはその都度検討され運営にも反映されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は地域へ行事への参加を呼びかけるなど関係づくりに取り組んでいる。近くの八幡神社が地域住民の集いの場となり、散歩などの途中に交流が図られている。自治会長が運営推進会議のメンバーとなっており、グループホームの理解と協力を得て、地域で利用者の生活を温かく見守る雰囲気がある。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活することを支え、実践可能で具体的な独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や各ユニットリーダーを中心として全職員が共通認識を持ち理念を実践している。理念はホールやミーティングルームに掲示されており職員が常に確認できるよう工夫されている。また日誌や記録物にも明示して職員への意識づけを徹底している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域へ行事への参加を呼びかけるなど関係づくりに取り組んでいる。近くの八幡神社が地域住民の集いの場となり、散歩などの途中に交流が図られている。自治会長が運営推進会議のメンバーとなっており、グループホームの理解と協力を得て、地域で利用者の生活を温かく見守る雰囲気がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者及び各ユニットのスタッフ全員で話し合われている。地域密着型サービスとしての役割や業務を振り返り、課題の改善についても検討するなどのサービスの質の向上に向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者、家族、地域自治会員、民生委員、地域包括支援センター職員が参加している。会議内容は参加者との意見交換が中心となっている。しかし、会議の開催頻度は3か月に1回に留まっている。また会議内容は全職員に共有されていない。	○	運営推進会議は2か月に1回開催されたい。また会議録は全職員に回覧し内容を共有する仕組みづくりが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも市町村と行き来する機会をつくり、毎月現状報告を行い連携を深めるなどして協力関係を築くなどの取り組みがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回の家族会や面会時、電話連絡の際などに利用者の状況や暮らしぶりを伝えている。状態の変化などについてはその都度相談や報告を行い、きめ細やかに対応している。金銭管理については家族の来訪時に報告・確認が行われている。しかし職員の退職による欠員補充の場合の家族への報告は聞かれた場合にしか伝えられていない。	○	職員の異動や離職があった場合には家族に報告されることが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や年2回の家族会、面会時、電話連絡の際などに意見や希望などを積極的に聞いている。また解決に向けた手順やマニュアル、記録様式などを整備している。要望などはその都度検討され運営にも反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職に伴う欠員補充はあるがユニット間の異動や事業所の配置転換は行わず、馴染みの関係の維持に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修や系列グループでの合同研修会へ参加している。また外部での研修は計画的に参加し、受講後は報告会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会並びに各種研修会へ参加した時などの機会を活用し、情報交換や交流を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に職員が家庭を訪問して利用者や家族と面談したり、グループホームの見学をしてもらうなどして安心し納得の上でサービスを開始している。また家族からの情報も参考にして早期に馴染みの関係ができるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から生活や文化、行事、風習等を教えてもらったり、お互いにねぎらいの言葉をかけあうなど喜怒哀楽を共にしながら支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での些細な会話から出る言葉や表情、行動などから要望や思い、希望などを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者の日常生活上の気付きをメモに残し、家族や主治医、管理者間で話し合い、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しと、状態の変化に応じて現状に応じた見直しがなされている。またその都度利用者や家族、管理者、担当職員などからの意見が集約され、随時実情に即した介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり利用者の健康管理を強化するなどして状態の把握に努め、利用者にとって負担となる受診や入院の予防、回避などを図っている。また通院や送迎なども柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師や看護師との連携が取られ、適切な医療が受けられるよう支援されている。また本人や家族の希望するかかりつけ医への受診にも柔軟に支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス提供開始時に利用者や家族などと重度化した場合や終末期の対応について話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損なわない言葉遣いに留意している。利用者のプライバシーを守るため職員採用時には誓約書での意識づけがされ、またプライバシー保護マニュアルがある。記録類もきちんと保管がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースを大切にした自立支援を基本として業務途中であっても足を止めて話を傾聴するなど、利用者主体の支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じテーブルで同じものを食べ、一人ひとりのペースに応じたさりげない支援がなされている。また利用者一人ひとりの力を活かして後片付けや台拭き、食器洗いなどを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて適切に支援している。また入浴できない時に清拭や足浴をこまめに行い、清潔を保持している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりにあった楽しみ事や掃除、洗濯物たたみなど興味や関心に応じた役割、気晴らしの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ユニットごとやグループホーム全体での外出、個々の通院援助、利用者の希望や体調に応じて支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近隣の交通事情から玄関はオートロックであり、解錠は天候や時間帯、本人の希望に応じて行っている。また家族には利用時に十分な説明と理解を得ている。	○	安全面に配慮しつつも日中はできるだけ鍵をかけないケアの工夫に取り組まれない。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に避難訓練を行い消防署の協力を得て避難経路の確認や消火器の使い方の訓練を行っている。災害時の緊急連絡網も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列グループ内の栄養士による栄養バランスや季節感ある献立が作成されている。食事・水分摂取状況も個別に記録し個々の摂取状況に応じた補食や水分補給が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋内は明るく会話やテレビの音も大きくなく、換気もよくできている。廊下の掲示物には行事の様子など生活の1コマを見ることができる。また掲示物はユニットごとに異なり、目線の位置や壁伝いに歩く利用者への配慮などが見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での愛用品や趣味のもの等を持ち込み、その人らしさがうかがわれる居室づくりがなされている。		